

いばらきっ子の育ちをつなぐ



# 架け橋カリキュラム作成ガイドブック



令和6年10月  
茨城県教育委員会

## はじめに

茨城県では、平成30年度から、各市町村の幼児教育アドバイザー、各小学校の保幼小接続コーディネーター、幼児教育施設の園内リーダーに保幼小接続の中心となっただき、市町村や小学校区の保幼小接続に向けた連携体制を構築してまいりました。そして、「茨城県保幼小接続カリキュラム」をモデルとして策定し、各市町村や各幼児教育施設・小学校等においても接続カリキュラム（アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを含む）が策定されてきました。また、各市町村や小学校区においては、保育者や小学校教員の合同研修会、相互参観等が開催され、取組の充実が図られております。

さらに、令和4年3月に、文部科学省においては、「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」が策定されました。幼児教育と小学校教育の「架け橋期」の保育・教育の充実に向けて、子どもに関わる大人が連携・協働する体制を構築し、架け橋期のカリキュラムを作成・実施する取組が、全国で推進されております。

そこで、国の方向性や本県のこれまでの取組の成果を踏まえ、接続カリキュラムを改善し、保育・教育のさらなる充実を図っていくことが重要となってきました。そのため、それぞれの市町村等の実態に合わせて創意工夫のもと「架け橋カリキュラム」作成・実施を進めていく手掛かりとなるよう、今年度「茨城県架け橋カリキュラム検討会」を開催し、本資料を作成いたしました。

なお、本資料は茨城県教育委員会のポータルサイト「家庭教育応援ナビ」（研修資料・教材：就学前教育）に掲載しており、グループワークのワークシート、参観メモ、カリキュラム作成様式も用意していますので、ダウンロードしてカスタマイズすることが可能です。広くご活用いただき、各市町村や小学校区等の取組の充実が図られますことを期待しております。

結びになりますが、本資料の作成にあたり、多大なご尽力をいただきました検討会委員の皆様、心から感謝を申し上げます。

令和6年10月

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課  
就学前教育・家庭教育推進室長

和田 秀彦



# 「架け橋」で何をつなぐのか？

幼児期の自発的な遊びを中心とした生活の中で育まれた、やり抜く力や協調性、自信などの「非認知能力」は、変化する社会を生きていく中で重要な力です。幼児期の「夢中になって遊び込む中での育ちや学び」を小学校以降の「主体的・対話的で深い学び」へとつないでいくことが大切です。

また、「育みたい資質・能力」の三つの柱は、幼児教育から高等学校まで続けて育んでいくものとして各要領・指針等に共通して示されています。そして、幼児教育で資質・能力が十分に育まれると修了前の子どもに現れる姿（方向目標）として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」があり、小学校以降でも続けて育んでいく必要があります。

生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な「架け橋期」をつなぐカリキュラム作成の取組により、0～18歳までの発達の連続性に配慮し、子どもに関わる全ての大人が連携・協働をしていくきっかけとしていきましょう。

## 幼児教育と小学校以降の教育は、 「育みたい資質・能力」でつながっています！ ～小学校は0（ゼロ）からのスタートではありません～



## 「架け橋カリキュラム」とは？

「架け橋期」とは、5歳児から1年生終了までの2年間です。（0～18歳までの連続性に配慮）

「架け橋期のカリキュラム」のことを、本資料では、「架け橋カリキュラム」と呼びます。

「架け橋カリキュラム」は、**保育者と小学校教員等が連携・協働し、【共通の視点】**（育てたい子どもの姿・遊びや学びのプロセス・環境の構成・先生の関わり等）をもち、意見交換しながら作成していきます。

「架け橋カリキュラム」作成・実施の取組を通じて、子どもに関わる大人が立場の違いを超えて連携し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の子どもの多様性に配慮した上で、全ての子どもに**学びや生活の基盤**を育むことを目指すものです。

参考：令和4年3月文部科学省「幼保小の架け橋プログラム※の実施に向けての手引き(初版)」、「参考資料(初版)」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/1258019\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm)

※幼保小…本資料では、県のこれまでの取組を継承し「保幼小」としています。

※架け橋プログラム…架け橋期の子どもにかかわる大人が連携・協働することを目指す「体制作り」と、「架け橋カリキュラム作成」の両方を合わせた取組を指します。



## 今までと何が違う？

市町村、幼児教育施設・小学校のこれまでの取組により、県内の各市町村で接続カリキュラム（アプローチカリキュラムやスタートカリキュラム等を含む）は作成・実施されるようになってきました。

今後は、「カリキュラムの理念が共通していない」「取組が交流や入学時の学校適応でとどまっている」「施設類型の違いを超えた共通性が見えにくい」等の課題を踏まえ、さらに取組を充実させていく必要があります。

今まで	これから
入学前後の数か月	2年間 (5歳児～1年生)
入学時の学校適応中心 園や小学校単位で作成 が多い	学びの連続 地域単位で作成 (市町村や学校区等)



# 令和〇年度〇〇市（〇〇小学校区）架け橋カリキュラム（イメージ）【ワークと作成順の例】

RO.O.O現在

【共通の視点】として考えられる項目例	5歳児												1学年											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
育てたい子どもの姿	<b>ワーク5【共通の視点】育てたい子どもの姿</b>																							
育てたい資質・能力	<p><b>知識・技能の基礎</b> (遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、何を感じたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)</p> <p><b>遊びを通しての総合的な指導</b></p> <p><b>学びに向かう力・人間性等</b> (心情・意欲・態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)</p> <p><b>思考力・判断力・表現力の基礎</b> (遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)</p> <p><b>方向目標</b></p> <p><b>幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿</b> ○健康な心と体 ○自立心 ○協同性 ○道徳性・規範意識の芽生え ○社会生活との関わり ○思考力の芽生え ○自然との関わり・生命尊重 ○数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 ○言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現</p> <p><b>学びに向かう力・人間性等</b> (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)</p> <p><b>知識・技能</b> (何を理解しているか、何ができるか)</p> <p><b>「豊かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を総合的にとらえて構造化</b></p> <p><b>思考力・判断力・表現力等</b> (理解していること・できていることをどう使うか)</p> <p>続けて育んでいく</p>												<p>&lt;フェーズ2&gt;ワーク5～8等により、保育者と小学校教員が【共通の視点】で話し合ったことをもとに、カリキュラムを作成する</p>											
遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと (写真の下の【 】それぞれの園や学校で展開される遊び・活動例)	<p>写真 【事例〇】</p> <p>写真 【事例〇】</p> <p>写真 【事例〇】</p> <p>学びの芽生え ○○○○○○</p>												<p>写真 【事例〇】</p> <p>写真 【事例〇】</p> <p>写真 【事例〇】</p> <p>自覚的な学び ○○○○ ○○○○</p>											
指導上の配慮事項	<p><b>ワーク6【共通の視点】大切にしたいこと</b> ～遊びや学びのプロセス・環境の構成・先生のかかわりについて考える～</p> <p><b>ワーク7・8【共通の視点】指導上の配慮事項</b> ～一人一人の子どもに応じた具体的な支援の例を考えよう/就学に向けて具体的な支援を共有しよう～</p>																							
環境の構成																								
先生のかかわり	<p>&lt;フェーズ1&gt;ワーク1～4等で保幼小の相互理解を図るとともに、気付きや意見を記録として残しておき、架け橋カリキュラム作成の参考とする</p> <p>交流会</p>												<p><b>ワーク10 スタートカリキュラムを見直そう</b></p> <p>&lt;フェーズ4&gt;改善・発展のため、子どもの学びや生活を具体的にイメージして話し合う場を設定する</p> <p>交流会</p>											
子ども同士																								
先生同士	<p><b>ワーク2(授業参観)</b> <b>ワーク3・4(保育参観)</b></p> <p><b>ワーク1(研修会)</b></p> <p>情報交換(入学先小学校と) 小学校スタートカリキュラム検討会</p>												<p><b>ワーク2(授業参観)</b> <b>ワーク4(保育参観)</b></p> <p><b>ワーク1(研修会)</b></p>											
家庭との連携	<b>ワーク9 保護者と連携しよう</b>																							
家庭教育の視点から																								
保護者との連携ツール	<p>おたより・HP・ポートフォリオ・ドキュメンテーション等 保育への参加 アンケート</p>												<p>おたより・HP 参観懇談会 アンケート</p>											

架け橋期(5歳児から1年生の2年間 ～0歳から18歳までの発達の連続性を見通して～)

今までの接続期のカリキュラムをベースに

アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム



【共通の視点】として考えられる項目例	5歳児												1学年											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
育てたい子どもの姿	<b>【例】なかまとワクワク やってみたいをやる子 ～一人で、みんなとでも～</b>																							
育てたい資質・能力	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>知識・技能の基礎</b> (遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、何を感じたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)</p> <p><b>思考力・判断力・表現力の基礎</b> (遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)</p> <p><b>遊びを通しての総合的な指導</b></p> <p><b>学びに向かう力・人間性等</b> (心情・意欲・態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)</p> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;"> <p>方向目標</p> </div> <div style="width: 40%;"> <p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康な心と体</li> <li>自尊心</li> <li>道徳性・規範意識の芽生え</li> <li>社会生活との関わり</li> <li>思考力の芽生え</li> <li>自然との関わり・生命尊重</li> <li>数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚</li> <li>言葉による伝え合い</li> <li>豊かな感性と表現</li> </ul> <p>学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)</p> <p>知識・技能 (何を理解しているか、何ができるか)</p> <p>思考力・判断力・表現力等 (理解していること・できていることをどう使うか)</p> <p>「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を総合的にとらえて構造化</p> </div> </div>																							
遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと (写真の下の【】それぞれの園や学校で展開される遊び・活動例)	<p><b>【例】</b> 夢中になって遊び込む</p> <p>【宇宙船を作ろうよ！:事例イ】</p> <p>【運動会のシンボルだ！:事例イ】</p>												<p>小学校への期待が膨らむ</p> <p>【小学校でワクワクチャレンジ:事例オ】</p>											
環境の構成	<p>〇様々な素材から材料を選ぶことができるように準備する。</p> <p>〇やりたいことに没頭できる場や時間を十分に確保する。</p> <p><b>【例】</b></p> <p>〇イメージを言語化し、共有できるよう、会話をつないだり、保育者が言葉に置き換えていく。</p> <p>〇保育者も失敗を楽しむ姿を見せながら、何度も試したり、粘り強く取組んだりする姿を認めていく。</p>												<p>安心して自己発揮する</p> <p>【学校生活のスムーズなスタート:事例キ】</p> <p>夢中になって学び込む</p> <p>【生活科学校たんけん:事例ク】</p>											
指導上の配慮事項	<p>〇友達の思いや考えに気付くように、遊びの振り返りにより、発見したことや遊びのイメージを伝え合う機会を設定する。</p> <p>〇自分の活動に自信がもてるよう、子どものイメージに寄り添い、見守る。</p> <p>〇共通の目的に向かってつくりあげる楽しさを味わえるように、対話を通してイメージを広げたり、膨らませたりする。</p>												<p>〇朝の活動では、幼児期の経験を踏まえて、好きな活動を選ぶように設定したり、自由に使える材料を用意したりする。</p> <p>〇新しい友達や教師とのふれあいの時間を大切に、幼児期に経験した遊び（音楽に合わせて体を動かす等）を取り入れる。</p> <p>〇ルールや約束については、子どもが活動の中で疑問をもった場面を捉え、経験や思いをききながら一緒に考えていく。</p> <p>〇合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の工夫により、子どもの思いや願いを大切にしながら教科や活動をつなぐ。</p>											
先生の関わり	<p>〇やりたいたいことを大切にしたいこと（写真の下の【】それぞれの園や学校で展開される遊び・活動例）</p> <p>興味をもつ</p> <p>心と体を開放</p> <p>学びの芽生え（自発的な遊びを中心とした生活の中で学ぶ）</p> <p>繰り返し 探究的に遊び込む</p> <p>やってみたいをやる</p> <p>試す</p> <p>人との関わりを楽しむ</p> <p>協同的に</p> <p>挑戦する</p> <p>体験する</p> <p>工夫する</p> <p>伝え合う</p> <p>共通の目的に向かって</p> <p>見立てる</p> <p>好きなことを形にする</p> <p>イメージを共有する</p> <p>自分で見つける</p> <p>使えるものがわかる</p> <p>ふりかえる</p>												<p>主体的・対話的で深い学び</p> <p>探究的な学びへ</p> <p>わくわくを感じる</p> <p>疑問をもつ</p> <p>自分で決めた方法でできる</p> <p>楽しい</p> <p>聞いてみたい</p> <p>調べる</p> <p>比べる</p> <p>試す</p> <p>相手意識</p> <p>安心</p> <p>もっと知りたい</p> <p>情報を取り入れる</p> <p>工夫する</p> <p>知らせたい</p> <p>伝え合う</p> <p>園みだりにやってみたいことができる！</p> <p>思いや願いをもつ</p> <p>活動や体験をする</p> <p>感じる・考える</p> <p>表現する・行為する</p> <p>振り返る</p> <p>気付く</p> <p>気付きの深まり</p>											
交流・連携計画	<p>子ども同士</p> <p><b>【例】</b> 交流会(参考:事例イ・オ)</p>												<p>先生同士</p> <p>園内研修(ワーク〇) 授業参観(ワーク2)</p> <p>保育参観(ワーク4) 市町村研修会(ワーク〇)</p> <p>情報交換(入学先小学校と) 小学校スタートカリキュラム検討会</p> <p>校内研修(ワーク〇) 授業参観(ワーク2)</p> <p>保育参観(ワーク4) 市町村研修会(ワーク〇)</p> <p>次年度のスタートカリキュラム検討会</p>											
家庭との連携	<p>家庭教育の視点から</p> <p><b>【例】</b> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有(育てたい子どもの姿を語り合う場を)</p>												<p>保護者との連携ツール</p> <p>クラスだより・HP</p> <p>【参考:事例キ】育ちのアルバム</p> <p>保育への参加</p> <p>就学時健康診断(家庭教育学級)</p> <p>参考:「子育てアドバイザー」</p> <p>入学説明会</p> <p>懇談会</p> <p>子育てマンガ・動画</p> <p>おたより・HP</p> <p>家庭教育学級や懇談会等</p> <p>参観懇談会</p> <p>教育相談</p> <p>アンケート</p> <p>懇談会</p>											

参考:ワーク5【共通の視点】育てたい子どもの姿共に育てたい子どもの姿を話し合い、決定する

参考:ワーク6【共通の視点】大切にしたいこと写真や動画等で子どもの姿を共有しながら作成すると分かりやすい「環境の構成」「先生のかかわり」についても一緒に考えていこうよ

参考:ワーク7・8【共通の視点】指導上の配慮事項ワーク6や、ワーク7、8を踏まえ、カリキュラムに反映する内容を決定

参考:ワーク10 スタートカリキュラムを見直そう保育者と教員で入学時の環境や合科的な授業を考える

参考:ワーク9 保護者と連携しよう「架け橋期」の教育について、保護者と共有する機会を設定する(保護者参加型のワークの実施を)

架け橋期(5歳児から1年生の2年間 ~0歳から18歳までの発達の一貫性を見通して~)

今までの接続期のカリキュラムをベースに

アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム

# 架け橋カリキュラム作成のプロセス



「架け橋カリキュラム」作成において大切なことは、保育者と小学校教員で子どもの姿をもとに語り合える体制を作り、保育・教育の充実に向けて実践・検証しながら、協議を通して改善していくことです。それぞれの保育・教育の違いを互いに尊重し理解し合いながら、共に育てていく子どもの姿を真ん中に、共通に大切にしたいことを語り合い、できるところから進めていきましょう。

今、自分の市町村（または近隣の小学校と幼児教育施設）は、どのフェーズの取組をしているかをチェックしながら、接続の充実に向かうように取り組んでみましょう。次のフェーズに取り組む際のヒントとして、ワークや事例を参考にしてください。

	フェーズの判断のイメージ	ワーク（１～１０）	事例（ア～ケ）
フェーズ1 基盤作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども同士の交流の実施</li> <li>管理職や担任間での関係作り</li> <li>生活の流れや活動の共有（相互参観）</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有しよう★☆</li> <li>視点をもって参観しよう（授業参観）★</li> <li>子どもの学びを捉えよう①（園内の保育参観）★</li> <li>子どもの学びを捉えよう②（保育参観）★☆</li> </ol>	<b>ア 子ども同士の交流から</b> （参考資料） 茨城の幼児教育第47号（校内研修）
フェーズ2 検討・開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>【共通の視点】をもとに保幼小で意見交換し、架け橋カリキュラムを検討</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>【共通の視点】育てたい子どもの姿★</li> <li>【共通の視点】大切にしたいこと★ ～遊びや学びのプロセス・環境の構成・先生の関わり～</li> <li>7、8【共通の視点】指導上の配慮事項★</li> <li>9 保護者と連携しよう</li> </ol>	
フェーズ3 実施・検証	各幼児教育施設や小学校での実施・検証 <ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程や指導計画等の見直し</li> <li>実践事例の収集・共有</li> </ul>		イ～エ、カ （幼）夢中になって遊び込む （参考資料） 5歳児の遊びと環境の構成 オ（幼）子ども同士の交流から キ（小）安心して自己発揮する ク（小）夢中になって学び込む ケ（幼）家庭との連携
フェーズ4 改善・発展 サイクルの定着	持続的・発展的な架け橋カリキュラム <ul style="list-style-type: none"> <li>PDCAサイクルの確立</li> <li>子どもの実態に応じて、各園・小学校の創意工夫を生かした動的なカリキュラムに</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>10 スタートカリキュラムを見直そう～保育者と小学校教員で一緒に合科的な授業を考える～</li> </ol>	（参考資料） 1年生のスタートカリキュラム 公開授業の取組より

★はワークシートまたは参観メモあり、☆はワークの参考資料あり